

NGO-労働組合国際協働フォーラム 2012 年度活動報告

(2012 年 9 月～2013 年 8 月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、『国連ミレニアム開発目標 (MDGs)』に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与することを目的として、2004 年 9 月に発足した。設立 9 年度目にあたる 2012 年度は、NGO19 団体（うち参加 NGO4 団体）及び労働組合 14 団体が参加して活動を行った。そのうち NGO7 団体、労働組合 9 団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、グループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「事業別タスクチーム活動」「課題別グループ活動」「事務局体制」「フォーラム会員団体一覧」について報告する。

I. フォーラム全体の活動

1. 合同企画委員会

計 5 回の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画、予算等についての協議と承認を行った。

2. 全体会の開催

参加 NGO も参加して行う全体会を 2012 年 12 月 3 日に開催した。

3. 学習会

本年度の学習会は、2012 年 12 月 3 日に開催した全体会の第一部として行なった。「ポスト MDGs」をテーマに、稲場雅紀氏（(特活) アフリカ日本協議会 国際保健部門ディレクター）と、堀江由美子氏（(公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン 海外事業部 政策提言マネージャー）より講演いただき、学びを深めた。

4. 広報

昨年度、広報ツールとして導入したメールマガジンの発行を引き続き月 1 回行った。フォーラムとしての取組みを定期的に報告できる他、フォーラムメンバーである各団体のイベントやキャンペーン情報の掲載など、情報発信の場として活用することができた。下記ホームページに、メールマガジンの登録フォームを設置している。2013 年 8 月末時点の登録者数は 239 名。

- ・連合：開発協力活動 (NGO との協働) のページ
<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyouryoku/index.html>
- ・JANIC：NGO-労働組合国際協働フォーラムのページ
<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

II. 事業別タスクチームの活動

1. MDGs シンポジウム開催タスクチーム

1) 開催の背景

本年度は、恒例の児童労働に関するシンポジウムが諸事情により開催できなかったことから、これに代わる本フォーラムの趣旨にかなうシンポジウムとして、「ポスト 2015 年開発目標（ポスト MDGs）」に関するシンポジウムを、国連 MDGs ハイレベル会合が開催される 9 月に開催した。JANIC、「動く→動かす」が中心となって今回のシンポジウム運営タスクチームの設置を提案し、各グループにも参加を呼びけた。

2) 開催目標

- ・協働フォーラムの設立目的でもある MDGs に関して、労組、NGO それぞれが、互いの取組状況とポスト MDGs の議論に関する最新の情報を学ぶ。
- ・市民に向けて、MDGs、ポスト MDGs に関する啓発をするとともに、NGO と労組が協力して 貧困削減に取り組む姿勢をアピールする。
- ・協働フォーラムの全体企画として、参加メンバーが協力して外部にも開かれた本イベントを実施することにより、連帯感を醸成する。

3) 活動実績

- ・シンポジウム名：「マルチセクターで取り組むポスト MDGs の課題」
- ・開催日時：2013 年 9 月 4 日（水）13 時 00 分～16 時 30 分
- ・場所：連合会館 2 階大会議室
- ・主催：NGO-労働組合国際協働フォーラム
- ・後援：外務省、1%（ワンパーセント）クラブ

- ・実績：来場者 111 名（関係者含む）、NGO 活動紹介デスク参加団体 11 団体
- ・プログラム

【第 1 部】

- ・開会・主催者挨拶 鈴木宏二氏（日本労働組合総連合会 総合国際局 国際局長）
- ・事例報告『MDGs 達成に向けた NGO-労働組合国際協働フォーラム 参加 NGO の取り組み』
 - 【HIV/AIDS グループ】 直江篤志氏（AAR Japan [難民を助ける会] ザンビア事業担当）
 - 【母子保健グループ】 勝部まゆみ氏（公益財団法人ジョイセフ 事務局次長）
 - 【児童労働グループ】 谷口玲子氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本ファンドレイジング・コーディネーター）
- ・講演『ポスト MDGs に関する議論の現状と主要課題』
飯田慎一氏（外務省国際協力局地球規模課題総括課 課長）
- ・パネルディスカッション『マルチセクターで取り組むポスト MDGs の課題』
 - モデレーター：稲場雅紀氏（動く→動かす 事務局長）
 - パネリスト：
 - ・飯田慎一氏（外務省国際協力局地球規模課題総括課 課長）
 - ・堀勇樹氏（広島県 文化芸術課 ピース・アーチひろしま担当監）
 - ・中尾洋三氏（味の素株式会社 CSR 部専任部長）
 - ・鈴木宏二氏（日本労働組合総連合会 総合国際局 国際局長）
 - ・谷口玲子氏（公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本ファンドレイジング・コーディネーター）
- ・閉会挨拶・閉会 山口誠史氏（特定非営利活動法人 国際協力 NGO センター 事務局長）

4) 成果と課題

- ・100名を超える参加があり、多くの方に本フォーラムの設立目的でもあるMDGsに関して知っていただき、考える機会を提供することができた。
- ・NGO、労働組合だけでなく、外務省、企業、自治体など、様々なセクターの方にご登壇いただくことで、さまざまな視点からMDGs/ポストMDGsに関して考えることができた。
- ・NGO活動紹介デスクを設けることで、このフォーラムに参加しているNGO団体の活動について多くの方に知っていただくことができた。しかし、開始1時間前から開場していたにも関わらず、参加者の来場時間は開始15分前頃からほとんどであった。開場時間や、NGO活動紹介デスクのPR時間帯などについては、今後改善の必要がある。
- ・アンケート回答者の9割以上が、「大変有意義だった」「有意義だった」と答えており、登壇者の選定、またプログラムに関しても充実した内容で実施ができたのではないかと考える。また、今回企業からの参加者が多かったことも特徴的であった。
- ・参加者の中には、このシンポジウムをきっかけに本フォーラムの活動に関心を持ってくれた団体もあった。このシンポジウムが、本フォーラム自体のPRにもつながったと考えられる。それらの団体に、フォーラムの活動に参加いただけるよう、今後アプローチも行っていきたい。

2. キャンペーン検討タスクチーム

1) 基本目標

関心のある組合員、一般市民が参加できるキャンペーンを支援することで、グローバル社会の課題をアピールすること。

2) 2012年度の目標

- ・積極的に支援するキャンペーン（以下キャンペーン）についての審査、合同企画委員会への提案を滞りなく行う。
- ・承認されたキャンペーンについては積極的にフォーラムメンバーの参加を促し、推進に努める。

3) 活動実績

積極的に取り組むキャンペーンとして、下記の申請の一時審査を行い、合同企画委員会に提案し、承認された。

- ・STAND UP TAKE ACTION（スタンド・アップ テイク・アクション）

主催団体：動く→動かす

承認期間：2013年7月1日～2013年10月28日

4) 成果と課題

- ・上記のキャンペーンの審査をすみやかにを行い、承認を得ることができた。
- ・承認されたキャンペーンについて、どの程度効果があったのかが不明瞭である。今後は、その効果を検証する必要がある。

Ⅲ. 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ

1) 基本目標

児童労働は働く私たちがまず考えなければならない問題ということから、労働組合と NGO が協力することにより、問題解決に向かうことを基本目標とする。今年度は特に、2013年6月に予定されているアフリカ開発会議（TICADV）などを視野に入れた児童労働反対キャンペーンを CL-Net と共同で行い、MDGs や児童労働の問題解決を目的とするイベントとする。

2) 2012 年度の目標

2012年の児童労働シンポジウムには、子どもの問題ということで、10代、20代の参加が多かった。この流れを止めずに、より効果的に若い層に働きかけていきたい。
また、作成した映像ツールを最大限活用したい。そのために、職場や組合の中で見る機会を一層作っていく。特に労組のイベント、ディーセントワークデー、大会などで露出できる可能性を探る。
また、これまでの児童労働シンポジウムで培ってきたスキル、ノウハウを駆使し、周知の次の解決をより意識したキャンペーンを、CL-Net と共同で行う。

3) 活動実績

1、第84回メーデー中央大会出展

児童労働ネットワークでの「ストップ！児童労働キャンペーン 2013 ひととはたあげよう」(6/1～6/30)のキックオフ的な位置づけで、メーデーでの出展を行った。

・「ひととはたあげよう」広報

「ひととはたあげよう」フライヤーをカラー出力し、メーデー参加者に配布した。フライヤーには、イオントップバリュのお菓子の子袋を付け、多くの方に持ち帰りやすくした。お菓子はイオントップバリュ株式会社に提供いただいたもので、UA ゼンセンの尽力によるものである。

また、「ひととはたあげよう」の旗のブランク版に、その場でイラストやコメントを書いてもらい、写真撮影を行った。その写真は「ひととはたあげよう」Facebook に掲載をした。また、お絵描きは、子どもたちに大人気であった。

・ 児童労働クイズ

「児童労働クイズ～つながりをみつけよう～」を行った。さまざまな児童労働の写真の中から、チョコ、タバコ、コットン、ジュータン、金採掘の5種類の産品を結びつけてもらうクイズで、クイズ用紙の裏には、この5種類の児童労働の解説を記載した。児童労働グループで作ってあった写真パネルを活用したが、パネル展示とクイズを効果的に連動させることができた。クイズ自体は難しくなかったが、大人でもヒントが必要となることも多く、大人も子どもも取組みができるものとなった。正解者には、ACE のてんとう虫チョコを差し上げた。



2、「ストップ！児童労働キャンペーン 2013 ひととはたあげよう」

ストップ！児童労働キャンペーン 2013 ひととはたあげようの広報協力を行った。今年度広報協力としての予算 15 万円のうち、14 万 350 円（20000 部、印刷費、デザイン費、交通費）出金し、フライヤーを作成した。

このキャンペーンの実績

写真数 463 枚、投稿者 152 人、ひととはたあげた人 2212 人、あがった旗 1883 本、

Facebook：いいね 1368、リーチ 29143、口コミ頻度 11831、アクション 2417、1 記事の最大閲覧数 5892

SNS の展開も大きいイベントとなった。

また、6/22（土）に「児童労働撲滅キャンペーン in 神奈川 2013」（横浜そごう前広場新都市プラザ）に参加し、ステージでキャンペーンのプレゼンテーションをし、展示を見る人や道行く人にお菓子付きのフライヤーを配布（500 部）するなどして、広報活動を行った。フライヤーはすべて配り終えた。



3、映像ツール

児童労働 DVD を活用した広報または児童労働について知っていただくための講演会開催を労働組合に働きかけている。2013 年 8 月 29 日（木）JAM の大会にて、映像の広報と NGO 労働組合国際協働フォーラム、児童労働グループについての活動紹介を行った。講師派遣費用として、6 万円を予算としていたが、JAM の大会の参加費（15000 円：机 1 台）と ACE 及びアムネスティからの参加者の交通費とした。大会にて、フォーラムや児童労働についての活動紹介を併せて行った。

4) 成果と課題

「ひととはたあげよう」広報は、イオントップバリュ株式会社の協力で、効果的に行うことができた。労働組合の協力が得られた。一定の成果は得ることができたので、次期はより広い広報、協力依頼が課題となる。JAM の大会への参加も、最後のアピールへの反応がとても良かったため、これからもこのような場での出展をしていきたい。時期や地域などが、偏らずに出展できるかが課題となる。

2. HIV/エイズ等感染症グループ

1) 基本目標

労働組合員や一般市民に対して、国内外の HIV/AIDS の現状と正しい知識を伝え、HIV 感染の予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークや NGO を紹介し、その活動への支援を促す。

2) 2012年度の目標

- ①HIV/エイズに関する問題や課題について、一般市民・労働者への普及と啓発に貢献する。
- ②グループメンバー団体が HIV/エイズ問題に関する知識を深め、より効果的に啓発活動を行えるよう研鑽に努める。
- ③2009年度に作成したプログラムメニューを使用した、ワークショップ実施を積極的に働きかけ、実施していく。

3) 活動実績

①組織運営

a) 参加組織

労働組合 2 組織（インダストリアル・JAF、IUF-JCC）、NGO 4 組織（AAR Japan、AJF、JILAF、シェア）の合計 6 組織で活動を展開した。

b) 事務局体制

グループ事務局は毎年持ち回りで担っており、2012年度はシェアが担当した。
また、イベント毎に担当を割り活動を実施した。

c) グループ会議

グループ会議は以下の日程で 7 回開催した。

2012年 10月 24日、11月 21日、12月 12日、2013年 2月 27日、4月 9日、6月 21日、8月 6日

②活動

a) HIV/AIDS 予防啓発イベントへの参加、実行

<エイズシンポジウム HIV/エイズと職場～労組の役割・求められるリアリティ>

- ・実施日：2012年 12月 16日 15:00～17:00
- ・場所：総評会館 連合 B 会議室
- ・参加者：30名（事務局含む）
- ・内容： - 基調講演：生島嗣：特定非営利活動法人ふれいす東京代表 「HIV/エイズへの支援・相談の現場からの報告～社会の課題」
- ワークショップ 労働組合の期待と役割を考える（4つの相談事例から職場、労組の対応を考える）

ふれいす東京からの実際の HIV 陽性者からの相談の事例についてお話があり、その後に具体的な事例を用い、労働組合の役割について考える場となった。HIV 陽性者の方も参加が数名あり、当事者、労働組合、NGO お互いの立場から労働に関わる問題や職場・労働組合に期待すること、支援できる内容等について率直に意見交換が出来、貴重な機会となった。

<メーデー中央大会（4月）>

- ・実施日：2013年 4月 27日
- ・場所：代々木公園
- ・来場者：約 100人
- ・内容：レッド・リボン作成参加型イベント、エイズ・クイズ、啓発用チラシ及びコンドームをセットしたポケット・ティッシュの配布

例年どおりの内容で実施をしたが、来客数が少なかったため、あまりアピールが出来なかった。
来年度は内容についても検討が必要と思われる。

<タイ人エイズ・結核ボランティア育成研修>

- ・ 実施日：2013年8月31日～9月1日
- ・ 場所：川崎生涯学習センター
- ・ 参加者 28名（講師シェア沢田・山本、辻本3名を含む） HIV／エイズ等感染症グループからの参加者2名（JILAF大辻・IUF-JCC中田）
- ・ 内容：TAWAN（在日タイ人の健康をサポートするグループ）、シェア（当グループ参加のNGO）と当グループの共同開催の形で、在日タイ人の健康ボランティア育成のための研修を1泊2日を実施した。既にボランティアとして長年活躍しているベテランから、今後の活躍が期待される方々まで、主に関東甲信越から集まり、医療通訳や医療や生活全般のコンサルタントとして必要な知識や心得を、医師やカウンセラーからの講義や、ワークショップでの討議・発表などを通して学んだ。参加者の積極的かつ自発的な姿勢と、講師陣の巧みな誘導により、和やかでありつつ、真剣で熱心な学びの場となった。研修を通して、在日タイ人（外国人）の健康サポートには、今回運営の組織を始めとした関連のNGOの他、医療機関や行政との連携が必要であることが理解できた。またそれら機関を有機的にネットワークすること、その存在を在日外国人が知る機会を広げることが、NGOにおける重要な役割であると思われた。

<その他実施できなかったもの>

- エイズ関係展示会：12月世界エイズデーとシンポジウムに合わせて、総評会館1階ロビーにて HIV／エイズに関わる活動のパネル展示を行う予定であったが、例年と内容と対象者が変わらないことから、実施を見送った。
- エイズ文化フォーラム in 横浜
8月上旬に一般の組合員や市民に対する HIV/エイズの啓発活動のために参加予定をしていたが、参加できないメンバーが多かったため、今回は実施しなかった。

b) 参加組織及び連合構成組織との連携強化と職場啓発活動としてのワークショップの推進

労働組合向けにこれまでの活動で確立したワークショップのプログラムメニューを活用したワークショップや、メンバー団体の経験や知識を活かした講義などを年間3件実施することが出来た。

<連合大阪青年委員会 エイズ学習会>

連合大阪より依頼があり、以下の内容でグループより2名講師を派遣し、労働組合向けエイズ学習会を行った。

- ・ 日時：2012年9月15日（土）10：00～12：00
- ・ 場所：大阪市北区中ノ島6-2-39 中之島プラザビル11F会議室
- ・ 内容：
 - HIV/AIDSの基礎知識（西山）
 - 日本の状況と職場におけるエイズ（中田）
 - ワークショップ 水の交換
 - グループディスカッション 労働組合ができること
 - 青年委員会の政策提言
- ・ 講師：シェア西山、IUF-JCC中田
- ・ 参加人数：15名

<グローバル製薬産業労組ネットワーク会議での勉強会>

HIV/エイズグループ所属のインダストリアル・JAF が関係する製薬産業労組のネットワーク会議において、世界の HIV の状況や薬のアクセスについて、AJF の稲場とシェア西山がパワーポイントを使い、説明をした。

- ・日時：2013年5月7日(火) 16:00~17:30
- ・場所：インダストリアル・JAF TDS 三田2階 A会議室
- ・参加者数：14名
- ・内容：「医薬品のアクセス」への考え方について
国内外でHIV/エイズの蔓延防止に取り組むNGOとの意見交換
AJF稲場：医療アクセスと知的財産権について
シェア西山：タイの事例から学ぶ薬のアクセスの現状と当事者の取り組みについて

<武田薬品労働組合 中央執行委員会>

インダストリアル・JAF の紹介により、シェアから武田薬品労働組合へ講師を派遣し、タイのエイズの取り組みについて発表した。武田薬品工業株式会社はグローバルファンドに大きな額を拠出している。タイでグローバルファンドから委託を受けているシェアの活動を通して、グローバルファンドが途上国でどのように活用されているかを知る機会となった。

- ・日時：2013年7月23日(火) 14:45~16:00
- ・内容：シェアの組織紹介、なぜHIV/AIDSの取り組みをしているか、タイでの具体的な活動内容（グローバルファンドの活動を含む）
- ・講師：シェア西山、広本
- ・場所：武田薬品東京本社内会議室
- ・参加者数：20名

4. 成果と課題

グループの年度目標ごとの成果と課題は以下のとおりである。

1) 一般市民を対象とした啓発イベント：今年度はシンポジウムでは労働とエイズに焦点を当てた内容とした。講師に HIV 陽性者のサポートをしている団体の代表をお呼びしたことから、HIV 陽性者自身の数名の参加があり、今までとは違った参加者に来てもらうことが出来た。これにより、ディスカッションの内容もリアリティのあるものとなり、参加者にとっても、非常に充実した内容となった。一方で動員の人数には改善の余地が残る。エイズデー近くは様々なエイズ関連イベントがあるため、参加者が分散してしまう傾向があること、また年々エイズに対する関心の低さが感じられることから、内容やイベント対象者に関して検討が必要と思われる。

今年度は、一般市民向けよりも労働組合向けへの啓発に力を注いだこともあり、エイズ文化フォーラム・パネル展示は実施しなかった。その他新たな取り組みとして、当グループ参加団体との共催で外国人ボランティア向け研修を実施した。日本の在日外国人のエイズ・結核に関する問題や取り組みについて参加メンバーも学べる機会ともなった。

2) 「グループメンバー団体の HIV/エイズ問題に関する知識・意識の向上」については、あえて今年度は勉強会を設けていなかった。しかし、1) の記述のとおり、イベント実施を通して、参加することで学習の場となった。

3)「組合役員／組合員を対象としたワークショップ」は昨年度全く実施しなかったが、今年は3回実施することが出来た。これも昨年度勉強会やタイへのスタディツアーを実施したことで、グループメンバー自身の知識・意識が向上したこと、さらに参加組織及び連合構成組織との連携が少しずつ強化されてきたことによる結果と思われる。今後も引き続き NGO-労働組合国際協働フォーラム参加組織への働きかけ、個別労組・産別へワークショップメニューを活用したワークショップ実施の呼びかけを強化することが必要である。一方で、当グループ参加メンバーを講師として派遣することのニーズはあるが、当グループが開発したワークショップメニューを各労組が独自で実施することは現実的に難しいと感じている。今後のワークショップの進め方については、検討が必要と思われる。

3. 母子保健グループ

1) 基本目標

- ・労働組合と NGO が協力し、国際的な母子保健の課題について、継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう。
- ・妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながる様、実現可能なアクションの参画を拡大化させる。

2) 2012 年度の目標

- ・ 1990 年代にさまざまな国際会議で定められた開発目標と、2000 年 9 月に開催された国連ミレニアム・サミットにおいて 21 世紀の国際社会の目標として採択された「国連ミレニアム宣言」とをまとめたものとして「国連ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals : MDGs)」ができた。MDGs は国際社会の支援を必要とする課題に対し、2015 年までに達成すべき目標などを掲げている。2010 年にミレニアム開発目標首脳会合において MDGs の進捗状況を検討した結果、貧困人口の減少や就学率の向上などはみられたものの、母子保健分野では依然遅れが目立っていることが分かった。この結果を踏まえ、国連事務総長と各国首脳は、民間企業や国際機関、財団などとともに女性と子どもの健康増進にむけての取り組みを行うことを宣言している。私たち母子保健グループでも、より多くの組合員に本問題に対する関心を深め、解決にむけての取り組みに協力してもらうことを目標とし、途上国における妊産婦保健の現状や課題について、多くの労働組合員にたいして発信していく。
- ・ 上記のための具体的な方法として、各会議やイベント時等に併せて、参加型の学習会やセミナーを実施、あるいはブース出店、パンフレット配布など啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ・ 連合構成組織内の認識を拡げるため、パンフレット、機関紙、Web、Blog、Twitter などを活用する。
- ・ 他の NGO や労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。
- ・ 上記を通じて、一人でも多くの組合員に母子保健の問題についてアクションを起こしてもらう。

3) 活動報告

- ・グループ会議開催

9/26 (水) 17 時～ 新年度に向けて 場所：基幹労連会議室

2/4 (月) 16 時～ 3/8 連合「国際女性デー中央集会」に向けて 場所：3.8 用レストラン会場

7/26 (金) 16 時～ 活動報告・新年度予算、計画について 場所：電機連合会議室

※その他個別打合せ、及びメールにて調整あり

・イベント参加活動

①10/26（金）連合「中央女性集会」

展示とパンフレット配布

②1/24（木）、25（金）電機連合中央委員会

展示とパンフレット配布、チャリティアイテム頒布

③3/8（金）連合「3.8国際女性デー中央集会」

展示、及び大会開始前の時間を使って階下のパーラーを借り切り、途上国の母子保健をパネル、映像で紹介。興味をもたれた方にはジョイセフスタッフが説明を実施。デザートと飲み物を提供。 場所：よみうり会館6F「ココレストラン」83名参加

④4/27（土）メーデー

展示とチラシ配布、チャリティアイテム頒布。

※その他、Webや紙媒体を通じた広報宣伝活動（常時）－労働組合のHPや機関誌を通して、母子保健関連の情報を発信。ジョイセフ Staff Blog、HPで紹介。ジョイセフ年次報告書にも記載。

4) 成果と課題

活動内容は定着してきて、その分、所属する組合の委員の方には広まってきていると感じられる。今年度は新たな試みとして、3月8日に連合「3.8国際女性デー中央集会」参加者C a f eを開催。気軽に情報を得てもらうための試みであった。予想を超える人数（83名）の方に集まっていただき、目的は達成された。ただ、課題として、内容をもっと掘り下げて伝える事に工夫が必要である。これも回数を重ね、目に慣れてきてからなのかもしれない。

例年と同じ活動の中でも、情報の刷新を常に考え、展示パネルは毎回新しいものを1枚は作成した。予算内に収めるだけでは、量的なインパクトに欠けるため、ジョイセフのもっている展示パネルを多用した。

III. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO側事務局として（特活）国際協力NGOセンター（JANIC）が共同で事務局を担った。

IV. フォーラム会員団体一覧（2013年8月31日現在）

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた（次頁）。

N O	企画 委員	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	キャンペ ーン検討 タスク	MDGs シ ンボ タスク
1		インダストリアル日本化学エネルギー労働組合協議会		○			
2		NTT 労働組合中央本部	○				
3	○	基幹労連			○		
4		国際建設林業労働組合連盟 BWI 日本加盟組合協議会	○	○			
5	○	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会	○	○			
6	○	国公連合			○	○	
7	○	JR 総連				○	
8		自治労					
9	○	自動車総連	○				
10	○	JAM	○				
11	○	電機連合			○		
12		日本教職員組合(日教組)	○				
13	○	日本労働組合総連合会(連合)					
14	○	UA ゼンセン	○				

■NGO 側

N O	合同 企画 委員	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	キャンペ ーン検討 タスク	MDGs シ ンボ タスク
1	○	(特活)アフリカ日本協議会		○		○	○
2	○	公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本	○				
3	○	(特活)ACE	○				
4		(特活)エファジャパン					
5		オルタモンド				○	
6	○	(特活)国際協力 NGO センター				○	○
7		国際連帯税を推進する会 (ACIST)				○	
8	○	公益財団法人 国際労働財団	○	○			
9		(特活)シェア＝国際保健協力市民の会		○			
10	○	(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会					
11		公益社団法人シャンティ国際ボランティア会					
12	○	公益財団法人ジョイセフ			○		
13		(特活)難民を助ける会		○			
14		(特活)BHNテレコム支援協議会	○				
15		(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	○				
16	参加 NGO	公益財団法人オイスカ					
17	参加 NGO	(特活)グッドネーバーズ・ジャパン	○				
18	参加 NGO	(特活)チャイルド・ファンド・ジャパン				○	
19	参加 NGO	一般財団法人国際センター	○				

